



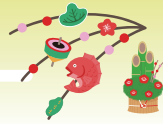
起立歩(キリット)

# Kiritto

VOL.32

令和2年1月発行

発行：香川医療生活協同組合  
高松協同病院  
発行者：院長 北原孝夫  
編集：高松協同病院 広報委員会  
H P: <http://t-kyodo.com/>



## 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。高松協同病院の院長の任に就き、早5回目の新しい年を迎えることになりました。本年4月に控えている診療報酬改定に向けて、あらためて地域医療構想の中で当院及び関連事業所がどういう役割を果たすべきなのかを考えざるを得ません。毎年のことではありますが、WHOが推進する健康増進拠点病院(HPH)として多職種で協働しながら地域全体のADL及びQOLの向上を目指しヘルスプロモーションをますます発展させていく決意です。実際これまで職員の健康増進というどちらかという内向けの取り組みが多かったのですが、昨年患者様や利用者の方々に向けての活動に広がりがつづきます。

たとえ病気や身体障害、身体虚弱等があってもいきいきと生活していくためには、やはり世界の平和なくしては語れないと考えます。昨年はバチカンのローマ教皇が38年ぶりに来日し広島や長崎を訪れて核兵器廃絶への強いメッセージを表明されました。それに少しで応えることができないかと、当院では本年は5年に一度ニューヨーク国連本部で開催される核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議に合わせて核廃絶を訴える代表団に当院職員を派遣する予定です。専門病院としてリハビリテーションの本分である生活復帰、社会復帰を目指す地域での医療・介護活動をますます充実させていきますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



院長 北原孝夫

新年おめでとうございます。

昨年の秋から冬にかけて、リハビリ希望の患者さんが多く、入院や日々の業務にてんてこ舞いの状態でした。以前に比べ合併症の多い方が多く、入院当初からリハビリだけでなく病気の治療や検査、場合によっては転院など、リハビリ以外の多くのことに時間がかかる入院の方が増えています。急性期病院が早期の退院をしなければいけない制度になり、全身状態が落ち着かないまま転院される人が多くなりました。できるだけ患者さん本人に悪い影響が出ないよう、治療やリハビリの準備をしっかりと行っていきたいです。そうかとおもえば、回復期リハビリテーション病棟を開院して18年になりますが、「こんなリハビリの病院があったなら早く来るんだ」という声もちらほら聞きました。まだまだ地域の中に浸透していない当院の位置づけを感じてまだまだ足りないと感じました。当院も現状に甘んじることなく、リハビリの内容や技術を高め地域へ浸透していきたいと改めて感じました。ここ数年、ロボットや機械で行うリハビリも進み、当院も上肢や歩行の機械を導入していますが、最後は患者さんを支えるリハビリチームのスタッフが、その患者さんのゴールをどこに設定するかで患者さんの到達点は変わってきます。技術が低いとゴールも低いものになってしまいます。患者さんと高いゴールが目指せるようなリハビリチームを作り上げていきたいです。そして、自分が病気になってリハビリが必要となれば、真っ先に入院したくなるような病棟を目指し、今年も頑張っていきたいと思います。



副院長 植木昭彦

あけましておめでとうございます。日頃より法人各事業所及び高松協同病院の連携等においてご協力を賜り深くお礼申し上げます。11月1日、高松平和病院より総師長として戻ってまいりました森と申します。よろしくお願いいたします。

高松協同病院は2002年に開設し18年を迎えます。開設当時は高松協同病院といっても知名度もなく、タクシーの方に道案内をしていたことを思い出します。「地域一番店になろう」を合言葉にスタッフと一基団結してリハビリ「全人的復権」を考え、患者目線での在宅復帰、ADL、QOL向上を迫ってきました。おかげさまで45床から85床へと病院も拡大し、地域からのニーズも高まっていることを肌で感じています。今年は診療報酬の改定もあり病院はどこも厳しい運営を迫られています。回復期リハ病棟も例外ではありません。患者目線で考えた地域包括ケア連携の強化により、患者が住み慣れた地域で生き生きと生活できるよう今まで以上に質を向上させ、多職種ワンチームとなって取り組んでいきたいと思っています。

今年が皆様にとって幸多い年になりますようお祈りいたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。



総師長 森みどり

## 第26回 看護介護活動研究交流集会



香川民医連では、年に1度、看護師、介護士が集まり「看護介護活動研究交流集会」と題し日々の活動報告や症例・研究発表を開催しています。今年で26回を迎え、11月23日に丸亀市のアイレックス綾歌で行われました。すべての演題を聴きたいとの要望が参加者から寄せられ、数年前より会場を1つに限定し、急性期、回復期、生活期、終末期とそれぞれの分野からの発表が行われました。普段回復期病棟で従事している立場ではなかなか絡むことのない児童の虐待についての事例では、虐待により不登校、自傷行為に繋がることとなり、本来大人や周囲の人たちにより与えられるはずの居場所を失ってしまったこと、そしてその対象に行ったスタッフのフォロー方法、結果について学ぶことができました。また、回復期病棟でも応用できる『ひもときシート』といった初めて目にするツール、iPadを使用した自己注射の指導方法など即業務に取り入れることができるような手法についても学習することができました。

途中松江生協病院の眞木副委員長より民医連の沿革、そして今までの民医連の姿をみた上で今後どのような問題に対応していくべきなのかといった講演を聴くこともでき、民医連の一員として改めて気が引き締まる思いがしました。

始めた当初は手探りで不安だらけだった看護研究ですが、周囲のスタッフの力を借りつつ研究を完遂した結果、自身でも気づかなかった新たな学び、可能性を再度発見できるステージとなり、達成感と共に大きな充実感を得る場ともなりました。今回の学びを持ち帰り今後の病棟での業務に応用させていきたいと思いました。

### 演題発表1

対象：A氏 70歳代 男性 病名：直腸癌術後

頻回に左手より湯呑を落すなどの症状があり、病院受診。頸椎後縦靭帯骨化症と診断され、2018年11月頸椎椎弓切除術を施行。術直後より右上肢の麻痺みられる。その後入院中に直腸癌がみつき2019年3月直腸癌切除術を施行。永久ストーマ造設。リハビリ目的にて当院へ入院となる。

入院直後の様子は早期より指導行おうとするも受け入れてくれず、頑なな態度をとっていた。ご家族とスタッフが話し合い、病気や現状の受容をしていない、今後の日常生活の不安が大きく作用していることを共有した。

具体的な介入策を話合っ、ストーマ、心理的ケアについて学習、対象の障害受容の段階に応じた対応方法の実践、家人、本人へのストーマ管理について指導を行った。自主性向上、障害受容につなげることができた。

この頃よりリハビリ、生活訓練を前向きに行えるようになり、自宅退院が実現できた。

回り八病棟看護師は心理的支援者であることが再認識できた。その上で専門的知識技術を提供すること、障害受容の段階に応じたケアの実践、リハビリテーションチームを牽引することで患者に寄り添った結果を導き出せる大きな役割があると感じた事例となりました。



### 演題発表2

回復期リハビリテーション病棟では専門性をより明確にするために回復期リハビリテーション協会が各職種別に10か条を掲げています。今回、介護10か条が作成されている中で、夜間排泄の自立をめざす患者様への取り組みを介護10か条に沿って実践した事例について紹介します。

対象：A氏 80歳代 男性 病名：左脳幹梗塞

現病歴：2018年12月、嘔吐や歩行困難が認められB病院入院し、急性脳梗塞を発症しました。右上下肢の麻痺、理解力の低下はありますが、簡単なコミュニケーションは可能でリハビリのためC病院へ入院となりました。

A氏は退院後、在宅生活を希望しており、夜間排泄の自立が在宅生活をする上で必須となりました。夜間はポータブルトイレを使用していましたが、動作が定着できず、ふらつきもありました。難聴で大きな声で話す必要があり、同室患者への配慮と構音障害によりコミュニケーションを円滑に行うことができませんでした。

そのため、いくつかの言葉を書いたプレートや筆談でのコミュニケーションを図りました。ポータブルトイレを導入後、1か月余りが経過しても、自立できなかったため、A氏と話をしました。排泄方法は他に尿器や帯尿器を使用することも可能であることを伝えましたが、A氏はポータブルトイレによりやく慣れてきたので、このまま続けていきたいと希望したため、排泄方法を変えずに様子を見ていくことにしました。

その後、排泄動作は定着したので、あとはふらつかなければ、自立できると考えました。入院当初より、考え事が多くて眠れず、睡眠導入剤を内服していました。そこで5日間、内服を飲まずに睡眠することで、ふらつきなく動作が可能か試みたいと提案しました。睡眠導入剤を飲まなかった間はふらつきもなく見守りで排泄ができ、その後、排泄動作は自立しました。

自立支援のために介護10か条に基づいた取り組みを行うことは有効で、患者様の「したい」気持ちを尊重することにより意欲や主体性向上になりました。





## たかまつ緑のカーテン・コンテスト

高松協同病院では東棟南側において、緑のグリーンカーテンを毎年設置しております。植え付けや水やりは、職員や組合員さんのボランティアさんたちにより行われています。

たかまつ緑のカーテン・コンテストに応募していたのですが、今年は事業賞部門で最高賞である市長賞を受賞いたしました。11月26日、職員と組合員さんの代表で高松市役所11階の会議室で開かれた表彰式に参加し、表彰状と賞品の造園商品券をいただきました。また、県のグリーンカーテンにも応募し「アイデア賞」を受賞しており、12月末に表彰される予定です。今年も2年連続のダブル受賞とうれしい年になりました。これも、早朝からボランティアで手入れをしてくれた組合員さんたちのおかげです。入院中の患者様にも好評で、少しでも省エネで涼しく、見た目も優しい緑のグリーンカーテンを今後も続けて行きたいと思います。



## 第一生命保険株式会社東四国支社様より車椅子の贈呈を受けました。

この度、第一生命保険株式会社東四国支社様より地域で貢献されている施設・事業所に対する車椅子の寄贈先を選んでいただきました。12月5日、寄贈の1台が運び込まれ、協同病院受付にて贈呈式が行われました。当日はオフィス長の日下様と9名の生保レディの皆様が来て下さいました。第一生命保険株式会社東四国支社様では、毎年社員の募金で成り立っている取り組みの一環として行われており、今年度は職員契約状況や医療活動も踏まえての選定だそうです。寄贈された車椅子は院内で大切に活用させていただくことにします。



## 第17回高松協同病院 健康まつり 出あい ふれあい 支えあい ～心をつなぐまちづくり～

10月20日、秋晴れの元、第17回高松協同病院「健康まつり」が開催され、約700名もの地域の方々に来場頂きました。毎年オープニングを飾ってくれていた木太中学校プラスバンドは学校行事が重なり残念無念の欠場。今年は屋島支部のフラダンスにてスタートをしました。今年も職員のバンド演奏で盛り上がり、院長、副院長もバンドに合わせて熱唱です。うどん、焼きそば、からあげ、カレーなどの組合員さんが出店するバザーも大盛況でした。子供達は、金魚すくい、スーパーボールすくい、子供くじで楽しみました。健康チェックのコーナーでは先生方が健康相談に乗ってくれました。奮闘した要員スタッフ、バザー出店、舞台出演、準備に関わった組合員の方々、たくさんの方々の協力で健康まつりは支えられていることを実感します。来年もさらに職員、組合員が協力し充実した健康まつりになっていけばと思います。



## 外来リハビリテーション科より

新年おめでとうございます。

外来リハビリテーション科は、PT2名、OT2名、ST1名と事務1名で構成されています。当院の外来リハビリの特徴としては、難病の患者様が多いということです。その中でも特にパーキンソン病の患者様が多く、特に力を入れてアプローチしています。2014年から毎年パーキンソン病患者家族会を当院外来リハビリ主催で開催しており、今年で8回目の開催となりました。また、パーキンソン病に特化したリハビリテーションプログラムである、LSVT BIGとLSVT LOUDの資格を有したスタッフも配置されています。

難病患者様以外にも、急性期病院や回復期病院を退院された方や、腰や膝が痛いなどの運動器疾患の患者様も多く外来リハビリに通院されています。また、必要に応じて自宅まで訪問させていただき、自宅での環境確認や環境設定のアドバイスもさせていただきます。

外来リハビリを希望される方や興味のある方は、お気軽にご相談ください。



## デイサービス協同より

明けましておめでとうございます。デイサービス協同は12人定員のアットホームなデイサービスです。脳トレやもの作り、クッキングなど、好きなこと、興味が持てる事を中心にご自身の出来る能力を引き出せるように、また体操やレクリエーションでは楽しみながら筋力低下を防ぎ、個別機能訓練では機能訓練指導員がその人の目標に合わせた動作訓練などを行なっています。利用者様の在宅生活が維持できるようにこれからもスタッフ一丸となって努力して参りますので、本年もよろしくお願い致します。

デイサービス協同職員一同



## 介護支援センター協同より

新年明けましておめでとうございます。

昨年は介護支援センター協同にとって大きく変化した年となりました。5月より新体制にて「『家におりたい』を支えることができる」を目標に利用者様や家族様、地域の方々の声に耳を傾け日々奮闘しています。

また10月より、従来の「介護予防訪問介護」と「介護予防通所介護」の利用要件に該当しない場合は、確認シートと地域ケア小会議での検討が必要となり、要支援認定者の利用がし難くなっています。更に消費税増税に伴い利用料金も高くなり、利用者様の負担も大きくなってきました。

複雑化される介護保険について分からないことや、ご相談があればお気軽にお声かけ下さい。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

